

## 岡本先生を送る言葉

平寫寛大

神戸市外国語大学に在籍して早 10 年、岡本先生には大変お世話になりました。正直に申しますと、岡本先生には謝罪と感謝の気持ちが入り混じっております。

メールの返信が 1 年滞ったり、授業ではろくな予習・復習をしていなかったり、紹介していただいた仕事であまり芳しい成果を上げられなかったり、岡本先生に謝罪すべきことが尽きることなく思い出されます。自分が気づいていないだけで、他にもあるかと思うと胃が痛くて仕方ありません。

加えて、岡本先生の研究者としての功績を語るには、不甲斐ないことに、自分は未熟です。しかし、不肖の一学生ではありますが、先生の研究姿勢や言動は心に響いていました。岡本先生にとっては、日常的な交流の一コマに過ぎなかったのかもしれませんが、先生の言葉は心に深く残っているのです。

紙幅を謝罪で埋め尽くすよりも、学部時代に私の心の支えとなったエピソードで以て、送る言葉の代わりとさせていただければと思います。

2014 年 3 月、留年していた私の進級が無事に決まったとき、大学構内で岡本先生とお話する機会がありました。そのとき、先生からいただいた「君は去年とは見違えるようになったね。想像以上でした」という言葉は、以降のロシア語学習のモチベーションとなりました。

また、学部 3 年生の最後の授業、ベールキン物語『棺桶屋』の翻訳課題で、推敲もせずに提出してしまった「マジのマジ?」「もちのロンさ」というふざけた訳を目にしても、先生は、「訳のカジュアルさはともかくとして、大意は取れている。つまり、正しくロシア語を読めています」と褒めてくださったのです。

加えて、岡本先生の研究への真摯な姿勢も、とても印象に残っています。あれは、研究者志望の I 君と岡本先生の研究室を訪れた時のことです。当時、岡本先生は「その研究をしてどうするの。大学院に進みたいなら、調べて終

わってしまう研究ではよくないよ」と滔々と語られました。当時は厳しいことを言われたと思っていたのですが、今になってあの言葉の重さをしみじみと感じています。あの時、先生が厳しい姿勢で話されたのは、学生への優しさと研究への真摯さ故なのだと。

学生への優しさと研究への真摯さは、先生の授業にも表れていました。

「ロシア語学入門」の授業では、ロシア語の音韻論に始まり、先生のご専門であるロシア語史についても教えておられました。ロシア語学特殊講義では、古代教会スラブ語を教えておられました。各授業で配布して下さった授業資料を、先生は学生のことを考えて作られたのだと存じます。でなければ、一授業のために、詳細な説明と資料をハンドブックとしてまとめ上げることなどできません。

岡本先生が授業中に用意して下さったハンドブックや資料は、未だに話題にのぼります。特に、S先輩とは岡本先生の話題で花が咲きます。

かつて岡本ゼミに所属していたS先輩は、在学時、卒論を書き上げるため、うちに泊まりこんでいました。そんなS先輩は、岡本先生から渡された資料をいつも読んでいました。そして、週末には、ロシア語の論文を二人で読みながら、岡本先生の授業資料や発言メモと格闘し、岡本先生の発言の意図はどこにあったのか、卒論を進めるためのヒントが資料のどこかに隠れていないか、こたつに潜り込んで話し合いました。あの冬ほど、毎日のように岡本先生のことを話していた時期はありません。

今でも、旧友たちと会うと、先生の授業、ふと出る口癖や仕草にはじまり、皆が思い出話を持ち寄ってきます。

岡本先生、ご教授していただき、本当にありがとうございました。心よりの感謝を申し上げたいと存じます。いつの日か、先生が示して下さった優しさと真摯さを、ロシア語を学ぶ後輩たちに還元できたらと思います。

教授という職を退職されても、これまでと変わらぬご健康とご活躍を心より願っております。